

# 田原市が日本一の農業産地であることをもっとPRしては

「日本一の農業産地」を表示することは、シティセールスの面でも大変効果がある



長神 隆士  
自民クラブ

## 6次産業化と農商工等連携について

**問** 6次産業化・農商工等連携の取組が遅れていると感じるが、今後の方向性は。

**答** 付加価値の向上や消費期間の延伸、さらには観光との連携による飲食・宿泊機会の拡大などに結びつけることはメリットとなる可能性があるため、積極的に促進していく。

**問** 田原市が日本一の農業産地であることを、市内の産直施設などでもっとPRしてはどうか。

**答** 農林水産省から市町村別農業産出額が公表される度に広報たはらやホームページにおいて「農業産出額日本一」を掲載してきた。市内の産直施設は民間施設ではあるが、日本一の農業産地を表示することはシティセールスの面でも効果があると考えているので、相談してく。

**問** 渥美半島たはらブランドとして91品目が認定された。今後の考え方は。

**答** 田原らしさなど一定の基準を満たしていればブランド品として認定した。今後はブランド価値の高いプレミアムブランドについても検討を進めたい。

**問** 6次産業化に取り組む事業者の拡大に向けての市の取り組みは。

**答** 中小企業者チャレンジ支援補助金で創業時の経費負担を支援する。また、道の駅田原めっくんはうすに整備する加工施設を、農業者・商業者が利用しやすい環境に整えることで、6次産業化などの裾野を広げていきたい。

**問** 産直機能を活かし、道の駅を地域福祉ビジネスの拠点として活用することを検討してはどうか。

**答** 加工施設の利用希望者には、高齢者向けの惣菜などの製造を検討している方もいるので、これらを活用した高齢者支援の可能性について、調整を図っていきたい。



## 「渥美半島を元気に！」するための職員の採用について

**問** 田原市が求める職員像は。

**答** 田原市職員人材育成基本方針で「変革力を持つ個性豊かな職員」と定めている。

**問** 専門的知識を有する職員確保の考え方は。

**答** 専門的知識については、これまでも民間などでの経験を積んだ方を、職員の年齢構成など勘案して採用している。

**問** 任期付職員の採用実績と考え方は。

**答** 平成28年4月から田原福祉専門学校で1名採用。今後はさまざまな社会変化に的確に対応し、必要が生じた際は採用していく。

**問** 総合能力試験の実施状況と課題は。

**答** 総合能力試験は、人物重視の試験であり、特技・技能・熱意を査定し、選考する試験。今年6月に実施した一次試験の事務職の受験者数は62名。今年度導入したばかりの制度なので、課題は今後検証していく。



小川 貴夫  
自民クラブ

総合能力試験の受験者の対象年齢を40〜50歳以下にしてはどうか  
今年度の結果を検証し、より有効な採用制度としていく